

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和3年6月29日
村山 章

私は、存在の全てが私一人の心の中に入ってしまう現実に不思議さと怖さを感じます。それは、この世が、お一人おひとりを中心に回っていることから生まれます。この場合、自分だけ自分を中心に回っているなら何の苦勞もありませんが、全ての人自分が中心に回っていると感じているのです。お互いが、自分を中心にこの世が回っていると思うているのですから、日々の生活のなかでぶつかってしまのは当たり前でしょう。ただ生い立ち、外見、性格などは相手個人の問題であり、自分の問題ではありません。したがって反りが合わないなど感じた際は、とりあえず距離を置くことです。そして相手がなぜそのような状態になったかを“(全ての人と社会にとってよりよい世界を考える)総合人間科学的”に分析すれば自身の成長につながります。原因と結果がある訳ですからご自身の分析も必要になるのです。

よくある質問に「人は何のために生きるのか」があります。その答えとして「魂を磨くため」という言葉をよく目にするかもしれません。それに倣えば、日々の生活のなかで幸不幸、喜怒哀楽を経験しながら、生まれた瞬間より少しでも美しく、やさしい魂に成長することが生きる目的となるのではないのでしょうか。ダーウィンの進化論にもあるように、生物はそれぞれの種で環境に適応しながら進化を繰り返して今の存在があります。地球上に生命が誕生したのは35億年ほど前のようですが、ヒトという生物がここまで進化した背景には、助け合いや思いやりの精神があったからだと思うのです。それは、この二つの精神が、宇宙のリズムとも関係するほど根源的な存在だからです。だからこそ、これらがなかったらヒトはここまで進化はできなかったと思います。

“総合人間科学的”に分析することは、この助け合いや思いやりの精神を磨くことにもつながります。いろんなことに感謝をし、一日一日を大切に誠心誠意精進して生きることが大切だと思います。